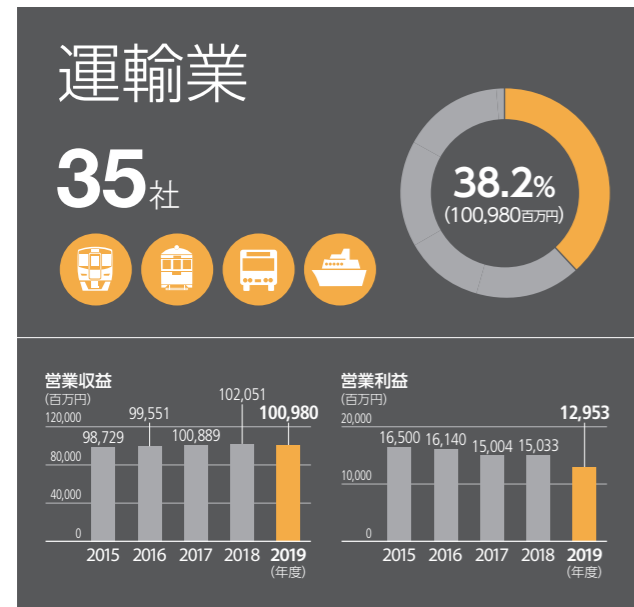


事業別の概況

※ 各セグメントの営業収益・営業利益は、セグメント間取引を含んだ数値です。



事業概要

▶ 鉄道事業

南海電鉄は、なんばから泉州・和歌山を結ぶ南海本線と世界遺産・高野山を結ぶ高野線の2本の基幹路線を軸に、関西国際空港への重要なアクセスである空港線等各路線で、安全・快適な輸送サービスを提供しています。また、2014年にグループ化した泉北高速鉄道の路線が、南海電鉄との共同駅である中百舌鳥駅を起点として泉北ニュータウンを縦走しています。

▶ 軌道事業

阪堺電気軌道が阪堺線と上町線の2路線を運行し、地域の足として親しまれています。

▶ バス事業

南海バスをはじめ、和歌山バス、南海りんかんバス、熊野御坊南海バス、徳島バスなどが地域に根差した路線を運行しています。さらに、関西空港交通をはじめとする各社が、関西国際空港と主要都市を結びリムジンバス事業を展開しています。

▶ フェリー事業

南海フェリーが和歌山港と徳島港間を結ぶフェリーを運航して、近畿と四国を結ぶ快適な海上アクセスを提供しています。

経営成績

営業収益は、前期の台風影響の反動があったものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、1,009億80百万円(前年度比1.0%減)となりました。営業利益は、減価償却費の増加もあり、129億53百万円(前年度比13.8%減)となりました。

当期の注力事業

▶ 「NANKAI マイトレイン」の運行を開始



2017年に開始した「車両づくりをお客さまと一緒に考える「NANKAI マイトレイン」プロジェクト」による9000系車両のリニューアルが完了し、2019年4月に運行を開始しました。

▶ 百舌鳥・古市古墳群 世界文化遺産登録記念キャンペーンを実施



2019年7月、「百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録記念キャンペーン」と題し、ラッピング列車の運行、堺エリアの観光パンフレットの発行など各種施策を実施しました。

▶ 「熊野御坊南海バス」が始動



南紀エリアのグループ各社が経営資源を柔軟に活用し、一体となった事業運営を図るため、2019年10月、中間持株会社として南紀観光ホールディングスを発足させました。また2020年1月には、バス事業を担う子会社として熊野御坊南海バスが新たに始動しました。

▶ 「バスロケーションシステム」の対象路線を拡大



和歌山バスでは、バス車両に取り付けたGPS端末を活用してバスの運行状況をリアルタイムに提供する「バスロケーションシステム」を、2019年4月1日から導入しました。

▶ 直通高速バス路線「京都高野山線」を開設



南海りんかんバスでは、世界遺産・高野山への来訪促進を図るため、京阪バス株式会社と共同で京都と高野山を結ぶ「京都高野山線」を開設しました。秋の行楽シーズンに合わせた2019年9月～11月に期間限定で運行しました。

▶ 新造船「フェリーあい」の就航



南海フェリーでは、2019年12月15日から新造船「フェリーあい」の運航を開始しました。同船では女性専用席の新設やWi-Fi環境の整備のほか、船旅をより楽しんでいただけるよう、外観や内装にも工夫を凝らしました。



担当役員より

当社グループの使命である
安全・安心で良質な交通サービスの
提供に向けさまざまな取り組みを推進しています

鉄道事業の最大の使命は、当社が「共創136計画」の基本方針に掲げている「安全・安心で良質な交通サービスの提供」にほかなりません。この点において、2019年8月に特急ラピートの台車にき裂が見つかり、重大インシデントに認定されたことは慙愧に堪えません。あらためて関係する皆さまに多大なご心配、ご不安な思いをおかけいたしましたことをお詫び申し上げます。

本件を受け、2019年度は、台車の定期検査内容の見直し、検査マニュアルの改訂などを実施し、お客さまの信頼回復に取り組みました。また、引き続き施設や高架橋柱の耐震補強工事を進めたほか、踏切に新型障害物検知装置を採用するなど、安全性向上に取り組みました。災害対応としては、倒木の危険がある樹木の伐採や法面の防災カルテづくりを実施したほか、本社、現場、指令所とを結ぶWeb会議システムを採用し、災害時の情報連携を強化しました。

一方、サービス面では、南海線でお客さまと車両づくりと一緒に考える「NANKAI マイトレイン」プロジェクトによってリニューアルした9000系車両の運行を開始しました。また、

常務執行役員
梶谷 知志



高野線における多言語列車放送システムの導入、駅や一部特急列車への携帯通訳機の配備、列車走行位置等を確認できる「南海アプリ」の配信など、国内外のお客さまの利便性向上に努めました。

生活に欠かせない社会インフラを担う当社は、新型コロナウイルスの感染拡大によって鉄道利用者が減少している状況下でも、感染リスクを最小限に抑えながら事業を継続していく使命も担っています。そこで、車両内への抗菌・抗ウイルス加工や券売機、精算機のタッチパネルへの抗菌・抗ウイルスシートの貼り付けなどにも取り組んでおります。

「共創136計画」の最終年度である2020年度は、「攻めの安全」を行動指針に、能動的に安全を創り出す文化の構築を目指しています。中長期的には、アフターコロナ、ウィズコロナの時代に求められるお客さまニーズに応えるべく、革新的な発想で新たな価値を創造し、「南海グループ経営ビジョン2027」の目標達成に向け、沿線価値の向上を図るとともに、定住人口と交流人口の増加に取り組み、「選ばれる沿線づくり」を進めていきます。

担当役員より

各エリアに密着し
グループ各社の専門性を発揮することで
ブランド価値の向上に努めていきます

当社が経営ビジョンとして掲げている「選ばれる沿線・企業グループ」となるためには、グループ各社が各エリアに密着し、事業ごとの専門性に特化した付加価値の高い商品・サービスを提供していくことが重要です。そして、お客さまをはじめステークホルダーの皆さまの信頼を確保・醸成していくことが、グループ各社の大きな役割と考えています。

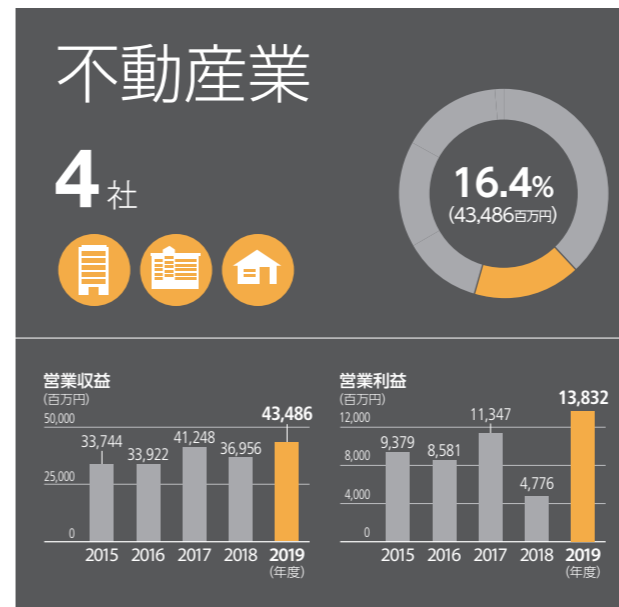
2019年度も、グループ各社がそれぞれの専門性を発揮した事業を推進しました。例えば、バス事業の関西空港交通、南海バスでは、インバウンド関連需要に応えるべく、空港リムジンバスや関空島内循環バスを増便したほか、関空第1ターミナルでインバウンド向けモバイル決済サービスを

上席執行役員
佃 吉朗



新たに導入しました。物流施設の不動産賃貸業では、大型物流施設を持つ泉北高速鉄道が北大阪流通センターの再開発を推進しました。ホテル・旅館業では、中の島が「ホテル中の島」のリブランディングを行い、個人向け小規模高級和風リゾート「碧き島の宿 熊野別邸 中の島」としてリブランドオープンしました。

今後も、運輸業、不動産業、流通業、レジャー・サービス業、建設業などのグループ各社の事業において、それぞれの専門性や培ってきた信頼を活かして、さらなるサービス品質や従業員満足度の向上に努め、各業界における高いブランド価値を構築していきたいと考えています。



事業概要

当社沿線や主要駅を中心に、商業・オフィスビル、賃貸マンション、駐車場などの不動産賃貸業を展開するとともに、宅地販売やマンション販売などの不動産販売業を幅広く展開しています。沿線価値の向上やお客さまのより豊かな生活環境づくりに貢献しています。

経営成績

営業収益は、なんばスカイオの通期寄与、マンション販売数の増加により、434億86百万円(前年度比17.7%増)となりました。営業利益は、前期に住宅開発事業等の見直しに伴う販売用不動産評価損を計上した反動もあり、138億32百万円(前年度比189.6%増)となりました。

当期の注力事業

▶北大阪流通センター再開発の第1期計画を推進



泉北高速鉄道では、「北大阪トラックターミナル1号棟」の再開発を推進しました(2020年4月3日竣工)。トラックターミナルと配送センターを一体とすることで、迅速かつ効率的な物流を実現する物流施設を生み出しました。

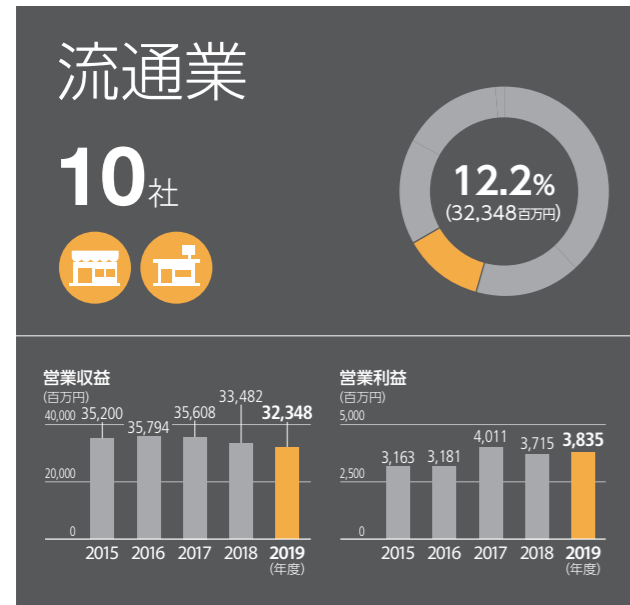
▶就労インバウンドトレーニング施設「YOLO BASE」を開業



2019年9月、日本初の外国人向け就労インバウンドトレーニング施設「YOLO BASE」を開業しました。同施設はホテルやレストラン、イベント会場などを完備しており、日本企業で働く上で求められる業務スキルの取得や知識・語学の習熟などを図れます。



※ 各セグメントの営業収益・営業利益は、セグメント間取引を含んだ数値です。



事業概要

当社沿線を中心に高感度なショッピングセンター、コンビニエンスストア、飲食店、物販店などの各種店舗を幅広く展開し、沿線の街の活性化に取り組んでいます。また、駅構内の物販店でのノウハウを生かし、駅ビジネス事業の沿線外展開にも取り組んでいます。

経営成績

営業収益は、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、323億48百万円(前年度比3.4%減)となりました。営業利益は、前期にショッピングセンターのリニューアル関連費用の計上があり、38億35百万円(前年度比3.2%増)となりました。

当期の注力事業

▶ なんばパークスをリニューアル



2020年3月、なんばパークスのリニューアルを実施しました。全国初出店を含む物販店・飲食店など合計37店舗*をオープンしたほか、パークスガーデンに「ウッドデッキスペース」を新設しました。

* 新規出店・移転・改装・業態変更を含む

▶ キーノ和歌山がグランドオープン

和歌山市駅直結の新駅ビルに建設を進めていた複合施設「キーノ和歌山」が2020年6月にグランドオープンしました。商業施設、ホテル、図書館など和歌山の玄関口ができ、新しいランドマークとなりました。

担当役員より

ハード・ソフト両面で総合的なまちづくりを推進し沿線価値の向上に取り組んでいます



専務執行役員 高木 俊之

当社は、10年後のありたき姿として「南海グループ経営ビジョン2027」を策定し、その中では「選ばれる沿線づくり」と「不動産事業の深化・拡大」の相乗効果を発現して沿線を磨いていくことを事業戦略に位置付けており、不動産・流通セグメントはその実現に向けた重要な役割を果たしています。

2031年春に予定される「なにわ筋線」開業後のなんばをより魅力あるまちにすべく、なんばエリアでの物件取得等を推進するとともに、従来からの自社保有地の開発・保有・運営を中心とする安定的な賃貸事業だけでなく、物件取得・開発に加え、リノベーション・売却までを見据えたフロービジネス等、より多様な事業を営む「総合デベロッパー」への脱却を目指し、「不動産事業の深化・拡大」を進めていきます。

また、行政ならびに地元関係者と共働のなんば駅前広場歩行者空間整備計画や新今宮・新世界エリアでの活性化に向けた取り組み等を通じ、「グレーターなんば」の

創造に向け回遊空間を創出するとともに、行政と連携したエリアマネジメントや沿線企業イノベーション支援等の地域活性化などソフト面のまちづくりにも注力し、沿線各地域ならびに泉北をはじめとする沿線ニュータウンの再生・活性化にも取り組んでまいります。

その中で、今般のコロナ禍によって環境が激変し、在宅勤務の拡大やインバウンドの急減により、事業構造の改革が急務となる一方、郊外生活の再評価等ニューノーマル時代の新しい価値を取り込んでいくことが必要です。まずは、足元を固めるべく構造改革に注力するとともに、並行して、次なる時代への成長シナリオの下、ハード・ソフト両面からアライアンスを積極的に採り入れ、なんばならびに沿線のまちづくりを加速し、「不動産事業の深化・拡大」と「選ばれる沿線づくり」の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

担当役員より

都市機能の充実と賑わいの回遊空間を創出し豊かな生活環境づくりに貢献していきます



上席執行役員 西山 哲弘

当社では、「不動産事業の深化・拡大」を通じて、商業施設、オフィス、住宅、ホテル、物流拠点などを一層魅力あるものにし、より豊かな生活環境づくりへの貢献を目指しています。

2019年度は、なんばエリアにおいて「なにわ筋線」開業を見据えオフィスビルを買収するとともに、国内外から高い評価を受け、さまざまな賞や認定を受けている「なんばパークス」の「パークスガーデン」をリニューアル。今秋には、ベビースターラーメンをモチーフにした都市型テーマパーク「リトルおやつタウンNamba」のオープンを予定しています。また、和歌山エリアでは、商業ゾーン・ホテル・オフィス・和歌山市民図書館からなる複合施設「キーノ和歌山」が、本年6月に和歌山市駅にオープンし、賑わいを駅周辺に広げていく「駅を拠点としたまちづくり」を具現化しました。

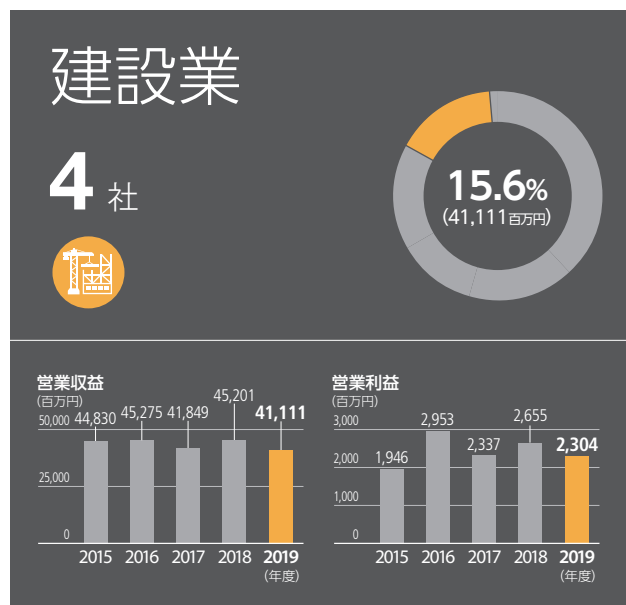
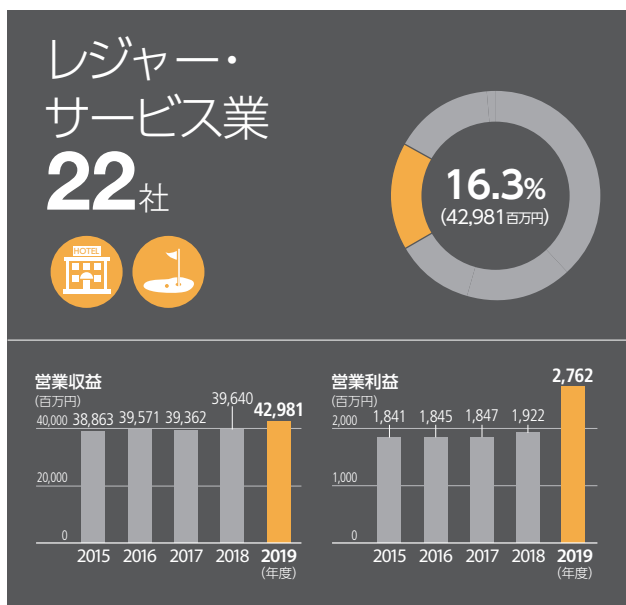
さらに、物流事業では関西圏における一大物流拠点を目指すための起点として、北大阪流通センター内にトラックターミナル1号棟が竣工、住宅開発事業では南海橋本林間田園都市に新街区「三石台ソラトモリ」が街びらきをしました。

しかしながら、今年に入ってから新型コロナウイルス感染症の猛威は、私たちの生活様式やワークスタイルを一変させようとしています。これにより、アフターコロナ・ウィズコロナでの新たな価値を創造することが急務となっています。デジタル技術の普及により、さまざまなコミュニケーションがオンライン化する一方で、改めて「リアル」な場としての価値を再創造し、出かける価値のある場所を創出することで、沿線の「交流人口」・「定着人口」を増やし、出かける・住まう価値のある新たな時代の沿線づくりに真摯に取り組んでまいります。



事業別の概況

※ 各セグメントの営業収益・営業利益は、セグメント間取引を含んだ数値です。



事業概要

旅行業、ホテル・旅館業、ポートレース施設賃貸業、ビル管理メンテナンス業など、お客さまの暮らしに潤いを与える事業を沿線内外で展開し、各事業の集客力向上と活性化を図っています。近年は、旅行業、ホテル・旅館業を中心にインバウンド需要の取り込みに注力しています。

経営成績

ビル管理メンテナンス業で増収となったほか、ホテル中の島のリブランドオープン、葬祭事業での葬儀件数増などが寄与し、営業収益は429億81百万円(前年度比8.4%増)、営業利益は27億62百万円(前年度比43.7%増)となりました。

当期の注力事業

▶ みさき公園の卒園イベントを開催



2020年3月末に閉園したみさき公園では、63年間の感謝を込め「みさき公園の卒園式～たいへんよく遊びました～」を開催しました。新型コロナウイルスの影響により、期間・規模の縮小を余儀なくされましたが、多くの来園者を楽しんでいただきました。

事業概要

南海辰村建設を筆頭に、グループ4社が建設業に取り組んでいます。当社の鉄道関連工事や、日本万国博覧会、関西国際空港などさまざまな建設工事を通じて積み重ねた豊富な経験・ノウハウを活かし、土木・建設・電気など建設工事全般を手掛ける総合建設業を展開しています。

経営成績

当期も、民間住宅工事のほか民間非住宅工事や公共工事の受注活動に注力しましたが、完成工事高の減少により、営業収益は411億11百万円(前年度比9.0%減)、営業利益は23億4百万円(前年度比13.2%減)となりました。

当期の注力事業

▶ 「CIRCLES銀座」を設計・施工



南海辰村建設では、三菱地所株式会社と株式会社松屋から「CIRCLES銀座」(地上10階建)の設計・施工を受注し、2019年11月29日に竣工・引渡しを行いました。建物内にはインナーバルコニーやシェアキッチンを併設できる「屋上テラス」などを導入しています。

その他の事業 その他の事業については、営業収益は35億3百万円(前年度比30.7%増)、営業利益は2億12百万円(前年度比37.9%増)となりました。

